

「大震災からの復旧―知られざる地域建設業の闘い」出版のご挨拶

このたび、ぎょうせいから、地域建設業の闘いの記録本を出版しました。

未曾有の大震災に立ち上がったのは自衛隊・警察・自治体だけではありません。被災地には大量の瓦礫を除去し、道路・橋梁・港湾の復旧を進めた地域建設業がいました。機能しない自治体もあるなかで、復旧にむけて地域建設業がどう動いたか、被災地の地域建設業を丹念に取材して、このたび本にまとめました。

日本は世界のなかでも、地震、津波、台風、豪雨、豪雪、火山噴火など、自然災害の多い国です。災害が起きるたびに、自衛隊や消防団、ボランティアなどの活動がメディアで紹介されます。しかし、現地で災害を食い止めるために働く地域の建設業者はなかなか報道されません。

岩手県や宮城県の建設業者は自ら被災しながら、早い地域では発災当日の夕刻頃から、余震が頻発するなかで、瓦礫を撤去して道を開く啓開作業を開始しました。自衛隊や消防・警察が救助に向かうためには、通り道を確保することが先決だからです。福島県では、多くの建設業者が原子力発電所の事故の後も避難せずに、復旧工事続けました。地域の国土と命を守る志があったからです。

私と共に現場の証言を取材したのは、地方建設記者の会です。記者の会は、北海道から沖縄までの地方建設新聞の記者の集まりで、二〇〇五年に結成されました。このたびの大災害では岩手県、宮城県、福島県の建設新聞の会社も被災しましたが、ネットを使った号外、県外の印刷所を使っての印刷・配送など、地域の建設業に正確な情報を伝達するために、休刊せずに新聞発行を続けました。こちらも気骨のある記者たちです。

刷り上がったばかりの本を手にして、出版して良かったと心から思っています。後世に残すべき記録です。地域建設業の使命も明らかです。首都圏直下型、東海・東南海・南海地震が懸念されている今、多くの方にこの本を手にとっていただきたいと思えます。そして、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県地域建設業がいかに大震災と戦ったかを知って、今後の教訓としていただければと願っています。

現在、私は微力ながら、釜石・大槌・遠野の森林再生と復興住宅の支援をしています。また、二十八学会が集結した東日本大震災に関する学協会連絡会（日本学術会議）の幹事として、国土政策や防災対策の抜本的な見直しのための連続シンポジウムも行っています。大震災の復旧と復興はまだまだ始まったばかりです。

東北の復旧と復興が早くすすむことを願ってやみません。

平成二十四年一月

米田雅子